

**市民社会シンポジウム**  
**－貧困、社会経済開発、環境分野の NGO 団体によるコラボレーションから－**

**1. はじめに**

今回、政策・メディア研究科 GR プログラムにおけるサブ・プロジェクトである市民社会勉強会が中心となり、市民社会を担う NPO、フリージャーナリストをお呼びしてシンポジウムを開催した。本シンポジウムの狙いとしては、市民社会を担う多様な方々から直接お話しを聞くことにより、市民社会に対する現実的な理解をより深めるというものであった。シンポジウムの講演者は、日本で唯一、児童労働を専門に扱う NPO 団体である ACE(Against Child Exploitation)の事務局長である白木朋子さん、また、アメリカにおける軍隊の現実を描いた映画「アメリカぼんざい」の制作者であり、フリージャーナリストである影山あさ子さんをお呼びした。それぞれの講演は、アメリカの貧困や、インドにおける児童労働者に対する社会経済開発の視点からの考察であり、非常に示唆に富むものであった。

**2. 開催日時及び場所**

日時：2008年7月2日(水) 13:00～14:45

講演者：特定非営利活動法人 ACE（児童労働に反対する NPO）事務局長 白木朋子さん

場所：大学院棟 31 会議室

日時：2008年10月14日(火) 16:30～18:00

講演者：影山あさ子事務所 フリージャーナリスト 影山あさ子さん

場所：大学院棟 31 会議室

※本シンポジウムの開催においては、SFC-CLIP やメーリングリストによる広報活動を行い、広く一般の参加者に対して公開して行われた。

**3. 開催内容**

**3-1 特定非営利活動法人 ACE 事務局長 白木朋子さん**

**発表題目** 「児童労働ーグローバル化とわたしたちとのつながり」

白木さんから、児童労働に関する基礎的な情報についての説明があった後、ACE が取り組むプロジェクトに対する説明が行われた。ACE ではインドにおいて活動する現地 NGO BBA と協力し、「子どもにやさしい村」のプロジェクトを推進しているということであった。このプロジェクトは、貧困ラインにあるインドの農村地域において、村の自律的發展を促す社会経済開発を目指すものである。具体的な内容としては、男性グループ、女性グループ、子ども議会などの住民組織の形成、教育プロジェクトの

推進、学校や道路、トイレなどインフラストラクチャーの設備などである。このプロジェクトの期間は通常 2 年程度であり、プロジェクト終了後も定期的に村へ訪問し、現状調査を行っているということであった。また、日本国内における活動としては、アドボカシー活動に力を入れており、児童労働削減に向けて行政や企業に対する働きかけを行っているとのことであった。このような講演に対し、児童労働と日本の関わりなどに関するディスカッションが行われた。

### 3-2 影山あさ子事務所 フリージャーナリスト 影山あさ子さん

**発表題目** 「アメリカ戦争する国の人びと取材レポート～若者たちの選択」

フリージャーナリストの影山あさ子さんから「アメリカ戦争する国の人びと取材レポート～若者たちの選択」をテーマとして、アメリカ海兵隊のブート・キャンプ（新兵訓練所）の映像をもとに講演が行われた。アメリカにおける貧困については、その経済的豊かさから語られることが少ない。しかし、軍隊という組織を通してアメリカの貧困を見ると、アメリカの歪んだ姿が見えてくるのであるということであった。ブート・キャンプに入り、軍隊となっていく人達の多くは、経済的に恵まれていない所得の低い家庭の人たちが多く。このような若者達は、軍隊に入ることによって大学の奨学金を得ることが出来るようになることや、自分のキャリアを積んでいくことが出来るということから軍隊という道を選ぶことが多いのである。しかし、実際には十分な額の奨学金を得ることは難しく、キャリアを積むことも難しいのが現状である。

このようにして兵隊になっていった者達は、現在、イラクやアフガニスタンに派遣され、最前線で戦闘を行っている。不幸して戦闘でなくなることも多いが、今度は派遣地から帰国した際に PTSD などの障害に苦しむことも多いのである。このような状況になった場合は、就職することも難しく経済的に自立することが困難となる。アメリカには約 350 万人程度のホームレスがいると言われていたが、その内 3 人に 1 人程度は元軍人であると言われていた。このようにして「戦争と貧困」が結びついて、下層を中心とした民衆を苦しめる負のスパイラルが絶え間なく生産されていくこととなるのである。

このような講演の中、影山さんの取材姿勢についてや、ブート・キャンプ取材時について、自由や民主主義というテーゼと軍隊の関係など、参加者によって活発な議論が行われた。

## 4. おわりに

今回のシンポジウムでは、市民社会を直に担う両名からお話を伺うことにより、貧困の問題について、またそれを解決することを探る社会経済開発、市民運動についての視点、また姿勢を学ぶことが出来たと思う。市民社会の中でも分野の異なる両名から、より良い市民社会ないしは社会を構築していくことに対しての示唆を得ることが出来た。

（文責：慶應義塾大学政策・メディア研究科 修士課程 2 年 田口剛）

※今回は基金の支給額から 2 団体の講演者によるシンポジウムとなった。また、当初予定していた講演団体のキャンセルにより、シンポジウムを 2 回に分けての開催となった。